

PHILIPS

Seminar



第40回 日本呼吸療法医学会学術集会
共催セミナー LS8

NPPVアゲイン!!

乗り手を選ぶNPPVの上手な扱い方

～NPPV, HFNC, 侵襲的人工呼吸器の使い分けを考える～

日時：2018年8月5日(日) 12:20～13:20

会場：第1会場 (東京ドームホテル B1F 天空センター)
〒112-8562 東京都文京区後楽1丁目3-61

座長：志馬 伸朗 先生
(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 救急集中治療医学 教授)

演者：小尾口 邦彦 先生
(地方独立行政法人 市立大津市民病院 救急診療科・集中治療部 部長)

参加方法 整理券制

配布場所 第3会場・第4会場前 / 配布時間 8:00～

共催

第40回日本呼吸療法医学会学術集会
フィリップス・レスピロニクス合同会社

第40回日本呼吸療法医学会学術集会 共催セミナー LS8

日時：2018年8月5日(日) 12:20～13:20 会場：第1会場(東京ドームホテル B1F 天空センター)

NPPVアゲイン!! 乗り手を選ぶNPPVの上手な扱い方 ～NPPV, HFNC, 侵襲的人工呼吸器の使い分けを考える～

小尾口 邦彦 市立大津市民病院救急診療科・集中治療部

HFNC (high flow nasal cannula) はネーザルハイフローの呼称の方が一般的かもしれませんが。HFNCが日本に登場してから数年がたち、ブームとも呼べる勢いで普及したと感じます。多くの施設において日常的に用いられる治療となっているのではないのでしょうか？ 演者もHFNCを使用する頻度が増えており、「HFNCはただの酸素療法ではない」ことを実感する日々です。「スーパー酸素療法である」と感じます。同様の思いを持つ日本呼吸療法医学会参加者も多いのではないのでしょうか。

HFNC登場の10年ほど前、NPPVが登場しやはり大ブームとなったことを思い出します。HFNCよりブームがあったかもしれません。当時、多くの場面でNPPVについて語られ、日本呼吸療法医学会においても大いに語られました。医師・看護師・臨床工学技士などがそれぞれの立場からNPPVにいかに取り組むか発信されました。NPPVはさまざまなコツを必要とするため、エビデンスといった堅い話より、むしろ「いかにNPPVを上手に使いこなすか？」といった点においても議論も多かったです。

HFNCの急激な普及をうけNPPVとHFNCの予後と比較した研究が発表されつつあり、あるいは多くが進行中です。「NPPV, HFNC, 侵襲的人工呼吸をどう使い分けるか？」が新たなビッグテーマとなりました。急性呼吸不全患者を対象としたFLORALI study (NEJM, 2015; 2185)においては、HFNC, 酸素マスクに比してHFNCが28日時点の挿管率が最も低かったと報告されました。「ちょっと待った～!!」です。FLORALI studyは慢性呼吸不全の増悪、心原性肺水腫、重篤な好中球減少症などを除外しI型呼吸不全を対象としています。NPPVを使うべきとされた病態を完全に封じられたといえ、「そりゃ、そーでしょーねー」です。

確かに、HFNCはスーパー酸素療法であり、そのパワーを感じることは多々あります。しかし「所詮、酸素療法である」こともまた事実です。侵襲的人工呼吸は文字通り侵襲的であり、さまざまなことを考えて設定し、あるいは患者肺に傷害を来す人工呼吸となっていないかモニタリングしなければなりません。それらの徹底に各施設は苦労しているのが現状ではないのでしょうか。NPPVは患者への導入、マスクの選択や使用方法、設定、維持等にさりげないがさまざまなコツを必要とします。そしてブームが過去となった今、それらのコツが失われつつあることが、NPPVの評価を難しくしている面もあると感じます。

肺保護換気の重要性が叫ばれるようになって久しいです。しかし例えばARDSとCOPDとでは肺保護のポイントは似て非なるものです。本セミナーにおいて、肺胞傷害疾患の代表格としてのARDS、閉塞性肺疾患の代表格としてのCOPDそれぞれの肺保護換気概念とNPPV・HFNC・侵襲的人工呼吸の特性を復習した上で、NPPV・HFNC・侵襲的人工呼吸をいかに使い分けるか？に結びつけ、明日からの実臨床に役立つものになりたいと考えます。

略歴	1993年 京都府立医科大学医学部卒業 京都府立医科大学附属病院研修医	医学博士 日本救急医学会専門医	DMAT隊員(統括DMAT登録者) 日本救急医学会ICLSコース コースディレクター
	1994年 京都第一赤十字病院研修医	日本集中治療医学会専門医	FCCSインストラクター
	1999年 京都府立医科大学大学院卒業 大津市民病院救急診療科・集中治療部	日本麻酔科学会指導医 麻酔標榜医	
	2011年 大津市民病院救急診療科診療部長	京都府立医科大学臨床教授	

フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル
www.philips.co.jp/healthcare/

